

かがみね

山梨県神社庁

伊藤 一夫

義捐金お礼、本庁評議員会	2~3	女子神職会、神道雅楽会	11
本庁65周年記念表彰	3~4	神道青年会	12
全国総代会代議員会	4	氏子青年協議会	13
神政連中央委員会	5	支部だより（甲府、東八代）	14
全国総代会大会（北海道）	5~6	表紙写真説明、遷宮募金状況	15
まんが古事記「あまのいわと」	7~9	今後の神社庁事業（ご案内）	16
教化委員会、神職保護司会	10		

敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を發揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。ここにこの綱領をかかげて向うところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと

一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

被災神社義捐金の御礼

この度の東日本大震災により被災された皆様に御見舞い申し上げますと共に、犠牲になられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます。

お陰をもちまして、現在九五〇万円を越える神社義捐金を、支部を通して県内神社関係者各位より頂戴し、神社本庁に送金致しました。厚く御礼申し上げます。しかしながら、被災神社の実情は依然として厳しく、尚一層の支援が求められておりますので、何分の御理解と御協力を切にお願い申し上げます。

神社本庁 春の定例評議員会

本庁評議員 小佐野 正 史

去る五月二十六・二十七日の両日、神社本庁大講堂において平成二十三年度春の定例評議員会が開催された。

一日目・二十六日午前十時、議席一番より一六八番までの評議員指定の席に着き、相対し、左側に統理以下総長、副総長、常務理事が、右側に理事及び監事が着席し開会、冒頭挨拶に立たれた久邇統理は、第六十二回神宮式年遷宮の諸事が順調に執り進められ、募財活動も目標を

達成したことについて「洵に喜ばしい」と述べられ、また、東日本大震災により神社の被災も含めた甚大な被害が生じていることに触れた上で「今回の会議では、震災の復興支援を含む対応策が多数上程される、評議員会の使命を十分に御理解いただき、斯界の進むべき方向を見据え、慎重かつ熱意ある審議を尽くしてほしい」との考えを述べられた。

議長・副議長登壇議事に入り

議案審議に先立ち田中総長が挨拶に立ち、平成二十三年度の庁務方針の概略を説明、また「平成二十三年度一般会計予算大綱」を示し、東日本大震災に関わる復興対策を最重点としたことを述べた。議事に入り一般会計予算案のほか、東日本大震災を受けての震災対策議案を審議した。質疑後議案一号より十二号のうち九議案はさらなる慎重審議を図るため、予算審議特別委員会を設置して審議を附託することとされた。

二日目・二十七日午前九時三十分再会

前日の本会議延会後に開催された議案審査特別委員会と予算審議特別委員会での審査・審議内容について両委員会の委員長が報告した。議案審査特別委員会委員長は提出された五件の議案について四件の本会議上程と一件の本庁当局送付を決定したことを報告、四件の議案については、日程に追加して議題とすることとなった(神社新報参照) 続いて予算審議特別委員会に附託された九件の議案が委員長より報告、経過説明があり、一般会計歳入歳出予算案のほか、東

日本大震災を受けての震災対策議案等々神社復興のための諸施策が上程された。

◎神社復興支援基金を設けて被災神社に支援金を交付する◎災害等対策資金貸付規程を一部変更して長期無利息の融資制度を拡充する◎被災神社の被害状況を考慮して各県（各神社）の本庁への負担金の徴収について特例を設ける（負担金賦課制度等財政調査委員会の設置）などが決まった。

その後久邇統理が発言を求め辞意を表明。「第六十二回式年遷宮や東日本大震災への対応などさまざまな取り組みが進められるなか、清新の気を吹き込み、活動をさらに活発にする良い機会とし退任したい」と述べられた。辞意を受けての統理選挙では

本庁六十五周年記念大会報告

金山神社 宮司 金子寿元

神社本庁設立六十五周年記念大会が、五月二十五日東京都渋谷C・C・レモンホールで開催され、本県からは神社庁手配の

前神宮大宮司の北白川道久氏が全会一致で当選、あいさつに立たれた北白川氏は東日本大震災の被災者にお見舞いを述べ、「久邇統理様の後任となることに、責任の重さを感じている。微力ながら全国神社の興隆と斯界の発展のため、尽くしてまいりたい」と述べられた。

後に自由討論では、種子田氏（鹿児島）が、「神宮大麻頒布について」と題し意見を発表。今年度の大麻の減体したことや、震災の影響で東北での頒布数減少が予想されることに触れ、神宮大麻頒布百四十周年を目前に控へ、改めて斯界を挙げた取り組みが必要なることを訴えた。評議員会終了後、神社本庁幣を頒つ班幣式があり、その後庁長会が行われ全日程を終了した。

バスにより、四十名が参列した。記念式典に先立ち、第一部として明治以降物故神職総代慰霊祭が斎行された。二千人以上収

容できるといふホールにも係わらず、全く力みのない「祓詞」や、斎主を務められた内海東京都神社庁祭式講師の「祭詞」など、肅々と進められた慰霊祭は厳かで、特に小野雅楽会会員が奏された、詠歌での参進退下招昇魂の際の和琴、極力音を抑えるよう注意を払い打ち出された太鼓の音、そして三管三鼓の合奏には、大変感銘を覚えた。

第二部の式典は、小串副総長の先導で池田厚子総裁が入場、続いて田中総長の先導で常陸宮・同妃両殿下が入場され、中央のお席にお着きになられ、寺井常務理事の辞により開式した。久邇統理の先導により神宮遙拜、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和に続き、池田総裁が式辞で、神社の祭りが東日本大震災により被災された方々の心の平安に寄与するよう、また本日表彰を受ける方々へのお祝いの言葉を述べられた。

次に、表彰委員会委員長の田中総長より、定例表彰に加え勤続五十年以上の神職や、教化または神社の興隆に功労のある神職・役員・総代などを設立六十五周年記念として表彰するとの



報告があった。

はじめに、久邇統理から矢田部宮司に鳩杖と功績状と頸飾章長老証書などを、ついで被表彰者を代表し、奥野誠亮氏、緒方基一氏に表彰状などが贈呈された。

次に常陸宮殿下から、東日本大震災により被害を受けられた方々と神社が一日も早く復興し、盛大に祭りが執り行われ、人々に活力を与えるよう、神社が地域の中心となり国民に大きな安らぎをもたらすよう願って

います。との御言葉を賜った。この後來賓を代表し、鷹司神

宮大宮司、岡村全国神社総代会会長、安倍晋三元内閣総理大臣が祝辞を述べた。安倍元総理大臣の常陸宮・同妃両殿下、池田総裁に対する礼は、心の内にある神への尊崇の念が滲み出て形となつて表れたが如く美しく、「天皇陛下は何代目の天皇か」との問いに「存じません」と答えた歴史や伝統に全く関心のない某党の輩とは、資質が根本的に違う事を感じた。

来賓紹介の後、矢田部宮司が被表彰者を代表し、謝辞を述べ、次いで寺井常務理事が、神社本庁は設立以来六十五年、神社の

興隆と我が国の道統護持に尽くしてきた。

折しも発生した東日本大震災という未曾有の事態に、我々神社関係者は祈りの心を一つにし、被災地の復興と祭祀の伝統の継承に努めてゆく。一方、第六十二回神宮式年遷宮の重儀が麗しく斎行され、未来永劫御遷宮の心が受け継がれることを願うと共に、斯道復興に向け更なる力を尽くす旨の宣言案を朗読し、満場一意で採択された。

最後に、綿貫長老の先導によつて聖寿万歳を奉唱。吉田常務理事が閉式の辞を述べ、閉式となった。

全国神社総代会定例代議員会報告

山梨県神社総代会 副会長 千 野 利 雄

全国神社総代会の平成二十三年定例代議員会が五月二十四日(火)午後一時より本社本庁大講堂で全国から代議員百九名が出席して開催された。(本県から宮川陸武会長・羽中田進庁長・千野が出席)

開会に先だつて、修祓・神殿拝礼・国歌斉唱・敬神生活の綱領唱和の開会儀礼に続き総代会関係物故者に対し黙禱が捧げられた。開会にあつて、会長挨拶では岡村正会長(代読・荒巻慎一

副会長)が、東日本大震災にあたり、天皇陛下から国民に賜つた大御心に対し国民一丸となつて復興活動を推進し、物心両面に亘る支援の要請、また伊勢神宮の式年遷宮の意義啓発と我が国の発展に向けての総代各位の理解と協力が求められた。

続いて本社本庁統理挨拶(代読、田中恆清総長)では、未曾有の震災に逢い、この時にこそ先人の気概に思いを致し、健全な国家社会の実現に向けて、努めていかなければならないと述べられた。

議事では平成二十二年会務報告、平成二十一年度歳入歳出決算の説明があり監事より監査報告があつて、いずれも承認された。平成二十三年事業計画案は全国総代会小申和夫事務局長から提案・承認された。

内容は甚大な被害をもたらした東日本大震災には、畏くも天皇陛下より国民に対して賜つたおことばを拝し、全国四十万余の神社役員・総代は一日も早い被害地の復興に向けて支援するとともに、人々の精神的紐帯である神社の復興を図り、我が国全体の隆盛に寄与する。更に関

係諸団体とも協力しつ、実践目標の完全実施を展開することが明記された。

具体的実践目標として「皇室敬慕の念を喚起し、尊厳護持のための啓発活動」「神宮式年遷宮の意義啓発と神宮大旗頒布推進」「東日本大震災からの復興に斯界全体で取組み、神社の伝統継承」「祭祀の振興と鎮守の森の保護育成」「国旗・国歌及び祝日の意義啓発」「適正な神社運営を図り、神社の奉護」等々に努める主旨が掲げられている。

事業計画審議の際に東北の代議員から今回の大震災で被災した東北各県に対して、全国からの支援の謝意と今後の復興活動に対する協力要請があつた。

その他、六月二十二日から北海道旭川市で開催される第四十七回全国神社総代会大会について、地元代表から歓迎の挨拶があつた。

伊勢神宮崇敬会の宮川事務局長から、同会の活動と理解と協力を求めた。

以上で平成二十三年全国神社総代会定例代議員会は無事閉会となった。

神政連中央委員会報告

山梨県神政連 本部長 佐々木 幸 永

六月七日十六時、本社本庁二階大講堂に於いて、平成二十二年度事業報告、年度別会員数並びに会費納入現況、二十二年度協賛金納入現況、その他について本部長事務局長連絡会が行われた。

十七時三十分、ホテルニューオータニに移り、神政連国会議員懇談会総会並びに神政連都道府県本部役員との合同懇談会が城内国会議員司会により開催され、安倍神政連国会議員懇談会会長・長曾我部神政連会長挨拶、稲田国会議員より活動報告、また、島根県の議員「竹島領有権問題」、宮城県の議員「大部分が台湾からであるのに、中国の義援金とした国の姿勢は理解できない」、福島県の議員「神社と一般の瓦礫は峻別が望ましい。」三氏の意見に対し、安倍会長が答弁、二十時懇親会を閉じた。

翌八日十時、本庁二階大講堂に於いて中央委員会が行われた。開会儀礼に続き、安倍会長

が「保守本流の政治に立ち返える日を、一日千秋の思いで待っている多数の人々のいることを申し上げるとともに、教科書の正常化にも神政連のお力添えをもお願したい」。田中本社本庁総長「為政者は、全力を傾注して災害復興に当って欲しい」。

大島自民党副総裁「自分の地位の確保のみの政治を止めさせ、美しい国の復活をなさなければならぬ」。稲田国会議員懇談会事務局長「戦後レジームからの脱却、国を守ろうという意志のあるリーダーでなければ国は守れない」と挨拶し、来賓は祝辞の後退席。次に、活動実績顕著な者に表彰状が授与された。議事に先立ち、東日本大震災の犠牲者と、過日急逝された山梨県本部外川幹事長の御霊に黙祷が捧げられた。議長着席、静岡の二橋氏、福岡の真木氏を議事録署名人に指名。二十二年度事業報告、二十一年度一般会計歳入歳出決算、二十一年度特別会計収支計算書以上三案承認、二

十三年度活動方針として大震災の苦難中、民族の美質を發揮し、山積する国難を乗越え再生に向う。事業計画として、緊急時への対策、国家主権を巡る諸問題への対策、皇室の尊厳護持、自

全国総代会旭川大会報告

峡中支部神社総代会第四支会長 笠屋神社 総代長

飯野七朗

主憲法制定、教育の正常化、靖国神社国家護持、政教関係訴訟対策、神社の護持継承対策、国旗掲揚・国歌斉唱の推進。二十三年度一般会計歳入歳出予算を議決し、散会となった。

第四十七回全国神社総代会大会が本年は、北海道旭川市に於て開催された。その大会に出席できる機会に恵まれ機上の人となる。蝦夷地旭川空港に六月二十一日十二時五十分一歩を踏む。旭川は戦時中軍港として発展して来た広大な市である。山梨とは一寸違った風に戸惑う。当地ドリーム観光バスにて層雲峡温泉に向う。汚れと疲れを払う一泊。翌二十二日上川神社に向う。開拓の先人達が、旭川の鎮守、開拓の守護として義経台と呼ばれる、現在の旭川駅附近の高台に、天照皇大神をお祀りする。その後鉄道等の発展に伴い、明治三十一年宮下通りに遷し、その後御祭神に大己貴大

「最北の雪解け水に身を白め上川の社襟正に拝す。」
百余年 歳の重みぞ 参道に
変わらぬ風や 玉砂利の声

十二時三十分、本番の総代会
 式典会場に着く。式典は旭川市
 民文化会館の大舞台で行われ
 る。来る人、集まる人の目の輝
 きに日本神道文化の伝統と尊厳
 を実感する。同時に東日本大震
 災による、本殿拝殿の全半壊二
 百二十八社あると聞く、氏子崇
 敬者に思いを寄せ、一日も早い
 復興を祈らずには居られない。
 清興に民謡を堪能し、記念講
 演で旭山動物園園長坂東元先生
 の「伝えよう命の尊さ。」に耳
 を傾け式典に入る。伊藤幸四郎
 先生の開会の辞に始まり、儀礼
 後総代会長代理として理事の荒
 巻敬一先生の式辞に神社関係者
 の奉仕について認識を新たにす
 る。神社功労者の表彰と続き、
 来賓の祝辞に先ずは北白川道久
 神社本庁統理、鷹司尚武神宮大
 宮司代理高城治延少宮司、長曾
 我部延昭神道政治連盟会長、高
 橋はるみ北海道知事代理久保田
 等先生の祝辞を頂戴する。表彰
 者一同六十七名恐縮の一言であ
 ったと思う。

今將に敬神生活の綱領三ヶ条
 が脳理に蘇る。厳かなる式典の
 一刻であった。かねがね山梨県
 神社庁庁長羽中田先生の持論で



ある日本人の日常の生活は敬神
 崇祖から始まるとの一節が思い
 だされる。晴の表彰者の謝辞の
 後、平成二十三年度事業計画及
 び大会宣言、次期開催地栃木県
 と報告承認され、大会の幕は降
 りたのであり、帰路札幌より機
 上の人になる。

山峡の 社は社なり 神は神
 諸々の人の 糧の心ぞ
 山梨にて



まんが古事記 (第一話)

「全国神社保育団体連合会」提供

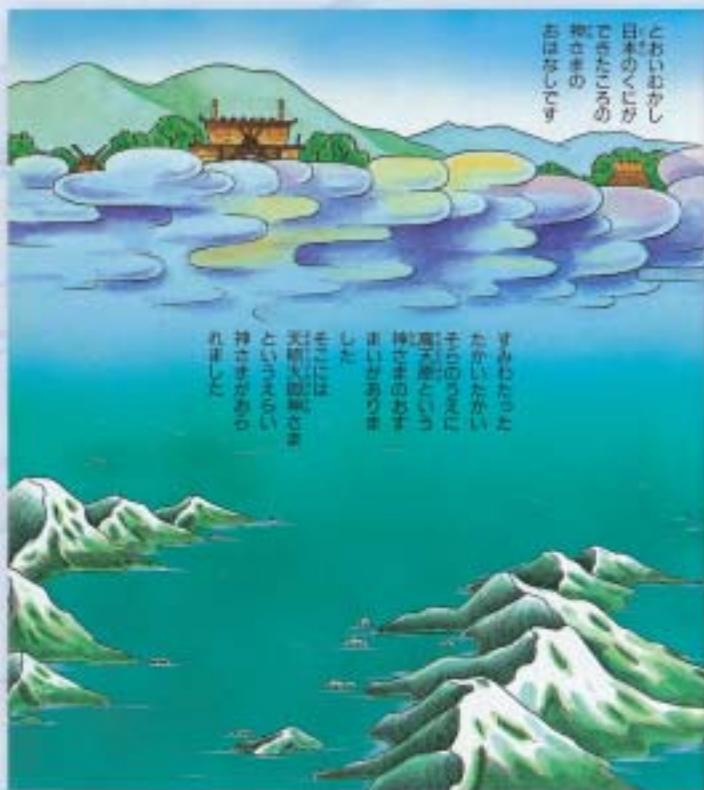


あらすじ

いたずら好きな須佐之男命は、高天原でいたずらばかりしていましたが、しかし、そのいたずらがあまりにも激しいので、日頃心のやさしい天照大御神さまも、さすがにお怒りになられ、天岩戸に隠れてしまわれました。

たちまちこの世のなかは、まっ暗闇となり大混乱です。そこで思兼神という賢い神さまが八百万神々を集め、天照大御神さまを天岩戸からおだしする一計を案じるのでした。

一五四号より、まんが古事記を連載します。お子さん、お孫さんと、神話の世界をお楽しみ下さい。





(二五五号 第二話へ続く)

県神社庁教化委員会宿泊研修について

教化委員会 広報部長 天野 武

七月四、五日に掛けて、恒例による研修が、羽中田庁長、根津副庁長も出席され、石和石風で実施された。教化委員会の年間重要事業である次世代を担う子供を対象にした、緑陰子供会、親子参宮団等、又、神社庁ホームページリニューアル等についての会議後、今回のメインである講演が、神社本庁教化部長、小間澤肇先生を招聘して行われた。神社界では年度切り替えが七月一日となっているため、ご就任早々にお話を頂くこととなった。

まず、国難とも云うべき東日本大震災について、参議院議員山谷えり子氏等と同行し、宮城、福島県を視察した。メディア報道で、ただならぬ状況は覚悟していたが、現地に入って想像を絶する悲惨な状況を目の当たりにした。被災後、間も無くの現地入りであったが、被災地の首長さんは行方不明者、瓦礫が散乱し道路が無い状況の中で、復興への思いを語り、未だ一歩も踏み出せない胸の内を明かし

た。家族、財産、生活の術を失った避難所生活の人等が、厳しい、不自由の生活の中で、規律正しく、我慢強く、助け合い、他人を思いやる姿は、今後、神社教化活動を奨める上で重要な切り口になると語った。

続いて、婚外子国籍問題へ、北海道砂川市有地内神社をめぐる政教関係訴訟、靖國神社の霊簿からの氏名抹消訴訟、山口県殉職自衛隊員護国神社合祀取り下げ訴訟等、解説され、考えを述べられた。

最後に、訴訟事件、又、今日の社会風潮を通して指摘出来ることは、行き過ぎた個人主義、個の自由が強調され過ぎ、対立的な思考等、国や公の事が蔑ろになっている。社会が共同体として発展してきたことを再認識する必要がある。神社神道を押し進める上で、宗教法人としての側面にこだわり過ぎず、神社には文化的、経済的、観光等の面があり、中広い、いろいろの側面を捕えて行くことが大切であると結ばれ、講演を終えられた。

全国神職保護司会総会に参加して

山梨県神職保護司会 副会長 内藤 佑介

六月十三・十四日東郷記念館・箱根において、第二十二回全国神職保護司会総会が開催された。

今年は花巻で実施の予定であったが東日本大震災のため急遽東京で行うこととなった。昨年は宮崎県で、車窓から高千穂峰を望み襟を正したことなど思いながら東京に向かった。

東郷記念館では十二時十分から法務省保護局観察課処遇企画宮幸島聡先生の「対象者と向き合い、地域社会と語り合う」と題する講演があり、地域社会に立脚した更生保護の創造へ向けての話をされた。

総会は二時三十分からで、式辞の中で松橋暉男会長から、今年のテーマを、直面する災いから夢をもって立ち直ろうという意味を込めて「夢」とする旨のお話があり、来賓の方々からも災害について「日本人の高い絆、助け合う日本人の心のすばらしさ」が外国人の心をうったと思う」などのお話があった。



二十三年度事業計画につづいて予算が承認され、次回総会開催地に復興なった東北へと、岩手県花巻に決まり閉会となった。

総会終了後、岩手県宮古市の花坂宮司さんから大津波の様子を撮影したビデオが紹介された。津波の驚異にただただ驚かされるばかりであった。湯河原山翠楼に移り研修レポートを整理し、提出。

十四日は車内研修、意見交換をし、箱根神社で正式参拝し、宮司講話（一時間）を拝聴した。富士屋ホテル菊華荘で食事と閉校式を行い解散した。

一日研修を終えて

山梨県女子神職会 会長 宮下富枝

去る五月十八日、牧丘の「夢遊園」において「日常生活に生かせる暦の見方」と題して神明神社禰宜・小林百合子先生に講師をお願いし、参加者九名による一日研修が行われました。

肌寒い一日でしたが、新緑の木々に囲まれ静寂の中に時折小鳥のさえずりが聴こえ、書院造りの窓からの庭園はタイムスリップしたかのようなレトロな雰囲気醸し出されて集中した研修ができました。

常日頃神明奉仕をしていると参拝者たちから多様な質問があり、特に易学に関する事柄が多いとのことであり、数年前にも神明奉仕に役立つようにと易学の研修をし、続けて研修を言った声もあり、なかなか機会に恵まれませんでした。今回の研修の運びとなりました。

参加者全員が暦を見ながら生まれ年による九星の見方、九星が分かれると相性相剋、相互の相性の見方、占い方が分かれると年盤、月盤の見方、皆で手の節を

順番に追いかけて賑やかに会話が弾みました。今度は、山梨近郊の地図を広げて吉方の方位取り、自分の家からの吉方を見出

雅楽会活動報告

山梨県神道雅楽会 会長 秋山忠也

私共山梨県神道雅楽会は神職の素養として雅楽を拾得すべく研鑽している。

稽古は毎月二回神社庁にて行なっている。その内一回の稽古は宮内庁式部職楽部元首席楽長上明彦先生に御指導を戴いている。雅楽指導は元より宮中の儀式饗宴、皇室行事などの解説を戴ける事は望外な喜びでもある。

この稽古の他、当会では神社庁恒例祭を始め武田神社など県内神社より奉仕依頼を受け祭典楽奉仕を行なっている。

又、近年神前結婚式が増加傾向にあり神社やホテル等の施設での挙式雅楽や人生儀礼の中で

すのに又々、賑やかに、時が過ぎたるも忘れ充実した研修となりました。

一日の研修ではほんのさわりであり到底知りえるものではありませんが、自己研鑽しながら更なるステップアップを歩みたいと思えます。

最も重儀である神葬祭での雅楽奉仕依頼にも対応している。

その他、武田の杜音楽祭やこ とぶき勸学院、教化委員会主催の緑陰子供会、山梨県生涯学習推進センター等各種団体からの演奏依頼にも応えている。

そして 数年来の活動の柱となつて いるのが 雅楽教室の開催である。



これは、千数百年連綿と受け継れ日本が世界に誇るべき歴史にも価値ある雅楽を伝えると共に神道教化の場と捉え活動している。県内各地の小中学校、養護学校、地域こども会等で実施、次代を担う子供達や教員、保護者に雅楽解説、演奏、体験実技指導を行い好評を得たことは会員の自信にもなっている。

又、今年で三回目となる雅楽研修会は講師に龍笛、上先生、籥、渡邊五郎先生、笙、池辺光彦先生（宮内庁楽師）を迎えて管別研修を中心に技術の向上を計っている。

今後尚一層の研鑽を重ね雅楽を通して学校、地域社会に活動を展開して行たいと考えている。

第十七回 神青協一都七県協議会総会

山梨県神道青年会 会長 田 邊 將 之

神道青年会は、「神道青年全国協議会」（以下「神青協」という全国規模の組織が存在し、各都道府県にはそれぞれ単位会が設置され様々な活動が展開されています。その中で、首都圏に位置する東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・茨城県・群馬県・栃木県・山梨県の八単位会により「神青協一都七県協議会」

（以下「二七協」）を構成し、諸事業諸活動を行っています。一七協は神道青年会創立間もない頃より様々な名称・形態により連携して参りましたが、平成七年、当会小佐野正史会長時に富士吉田市に於いて結成、現在の組織となりました。爾来標記の通り総会も十七回を迎えるに至りました。この神青協一都七県協議会総会は八単位会が持ち回りで主管を担当しており、今回は山梨県の当番ということでありました。



今回の総会は便宜上当会創立六十周年記念事業の一環として開催させて頂きました。よって一年以上も前から諸準備を進めて参りましたが、本年三月十一日に発生した東日本大震災により具体的準備は「例年通り開催するか否か？」という議論から始まりました。準備会議も回数を重ねました

が、「計画停電」の時期でもあり、停電が無い場所を選んでの準備会議の開催には悩まされました。また、日本中が自粛の雰囲気にも包まれる中、開催案内や進行次第を作成する際にも不謹慎ならぬよう言葉を選んで書類を作成したりと、苦勞の連続でした。

さて、右の経過により標記の総会が平成二十三年六月六日、富士吉田市内「ハイランドリゾートホテル&スパ」に於いて

ご来賓、一七協会員総勢百二十五名の参加を以て開催されました。当日は午後一時三十分より開会儀礼に始まり、昨年度事業報告・決算、本年度事業計画・予算等総会も遅滞なく進められ、講演会に於いては「東日本大震災に見る教訓」と題し、前衆議院議員赤池誠章先生よりご講演を賜りました。講演会終了後は「会食の会」を催し、参加者の懇親を深めて頂きました。特殊な時期の開催ということでお忙しい中ご出席頂きましたご



来賓の皆様方に厚く御礼を申し上げますと共に、会員の勞をねぎらいましてご報告とさせていただきます。

山梨県氏子青年協議会総会報告

山梨県氏子青年協議会 会長 鶴田勇雄

去る平成二十三年六月十九日に稲積神社参集殿において『平成二十三年度山梨県氏子青年協議会総会』が、山梨県神社庁長を始め五名の来賓の方々の出席を戴く中で、当会構成単位会である「山梨縣護國神社崇敬青年会」「北口本宮富士浅間神社氏子青年会」「稲積神社崇敬青年会」の青年会員多数参加のもと行われました。

議事では、平成二十二年度会務・会計報告、平成二十三年度事業案・予算案の承認、役員委



嘱の承認、会則変更の承認等、慎重審議滞りなく納めることが出来ましたことをご報告致します。その後は、各単位の交流を深める為の懇親の席を設けて、来賓の方々を含め会員一同で、氏子青年会としての意義やあり

全国氏子青年協議会京都大会報告

山梨県氏子青年協議会 (北口本宮富士浅間神社氏子青年会)

伊藤清

七月十六日早朝、当会員副会長を筆頭に六名で新幹線に乗り

京都大会に参加させて頂いていただきました。午前十時に京都に降り立ち、まずは京都の暑さに驚きました。また祇園祭の宵山でもあるこの日、祇園界隈は数多くの観光客に溢れておりました。まずはホテルに立ち寄り荷物を置き、半被を片手に八坂神社を参拝いたしました。八坂神社の煌びやかな神社の配色に新鮮さを感じました。また会員も北口本宮富士浅間神社鎮火大祭で神輿を担いでいることもあり、

方、今後の活動について話し合い、親睦を深めることが出来ました。

今後は当会所属三単体会が更に結束を深め、役員並び会員一丸となって斯道興隆に向け励精致す所存でございますので、神職・総代各位の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。

三基のすばらしい神輿に目が釘付けでした。

その後、河原町で長刀鉾を始めいくつかの山鉾を見学し、京都大会式典会場に、地下鉄でつかの間の涼を感じながら向かいました。さすがは国際会議場、すばらしい施設と地元京都の氏青スタッフの多さにまた驚きました。

総会に参加させて頂いたとき、その後定期大会では雅楽と舞によるオープニングに始まり実にすばらしい式典でした。式典スタッフに感謝いたします。



翌日は、山鉾巡行です。四条河原町交差点はすでに灼熱の中、数多くの観光客が場所取りをしていました。さすがは人気スポット、人並みに押され引廻し地点交差点をあきらめかろうじて見える場所に落ち着きました。巡行が始まり引き回しが行われるたびに歓声が沸き、少し離れた場所でもその臨場感を味わうことが出来ました。

残念ながら時間の関係上、神輿渡御を拝見することは出来ませんでしたが一泊二日の短い旅の中、数々の驚きと感動を肌で感じる最高の旅が出来ました。京都を護る皆様と文化に感謝を致します。

支部だより

甲府支部

山梨県神社庁甲府支部の

研修旅行に参加して

輿 石 恵美子

六月九日、宮城県護国神社・塩釜神社の正式参拝の研修旅行に参加した。仙台方面へ出かけることにより土地の産物を買えばいくらかの現地支援につながるだろうという意図もあった。

一日目、まず青葉神社に参拝。太い柱の石の鳥居が倒れている



塩釜神社正式参拝



青葉神社の倒れた石鳥居

のを見た。

次に宮城県護国神社に正式参拝。田中宮司より神社の歴史等講話があった。ここにも震災の被害があった。高台から仙台市

東八代支部

東日本大震災復興祈願祭 齋行と支部定期総会の開催

東八代支部長

志 村 重 治

一、被災地復興祈願祭の齋行
去る五月七日、支部定期総会開催の当日、総会に先立ち午後二時より、甲斐国一之宮浅間神社の参集殿において、同神社の古屋真弘禰宜が齋主、植松真芳権禰宜が祭員を奉仕され、山梨

内を眺めると、ガレキに覆われた海岸線ははてしなく続いていて胸が痛む思いがした。

仙台藩祖伊達正宗公霊屋も大きな石灯笼がいくつも倒れていた。宿泊した秋保温泉は、観光客は殆んど皆無でボランティアや警察関係の人々、作業員らが早朝より出入りしていた。

塩釜神社で正式参拝、稚児の舞いなども見せていただく。明日、祭りがあるとかで忙しそうだった。松島を経て塩釜港で海産物を買ひ、土地の人々とも交流し、帰途についた。

県神社庁より根津泰昇副庁長と、同顧問古屋真孝浅間神社宮司のご臨席のもと、東八代支部の神職、並に氏子総代会役員、七十五名の出席を頂き前に尽大な未曾有災害をもたらした、東日本大震災、関連する原発事故等の災害に対し早期に終息される事と、災禍に苛なまれている被災地の一時も早い復興を主願に支部としての復興祈願祭を齋行致しました。又この郷土が神々の守護を仰ぎ、日々平穏に過せる事に改めて感謝し、恒久

平和の祈りをも捧げながら、厳粛な祈願祭を滞りなく齋行申し上げました。

二、支部定期総会の開催

被災地復興祈願祭終了後の午後二時四十分、同会場で支部定期総会を開催しました。総会は支部の神職、並に氏子総代会との合同で開きました。

会議次第により田村弘正副支部長が開会の辞を述べ続いて志村重治支部長、小林弘樹支部総代会長より挨拶があり、被災地への義捐金、県社会館の完成、式年遷宮奉賛活動、領土問題署名運動、等々へのお礼と支部活動への協力依頼が述べられました。来賓祝辞を県神社庁根津泰昇副庁長、同古屋真孝顧問より賜りました。協議に入り議長には御坂地区総代長堀内文蔵氏を選出され、議案については第一号から第八号まで上程されました。出席者からは支部に対する建設的な意見も出され、全議案が原案通り承認されました。

協議を終え平成二十二年度功労者十名に表彰状、四名に感謝状が贈呈され、新任堀内文蔵総代会副会長が閉会の辞を述べ午後四時散会しました。

表紙写真説明

表紙の写真は富士河口湖町本栖鎮座山神社の例祭における御輿渡御、『公家行列』中の『奴振』、取組と呼ばれる場面であり、今社殿を出発したところである。

五月十七日朝、『アレサーテーサー』『イヤサーテーサー』『アヨーイヤナ』氏子の掛け声が響く中列を整え神前に参進。例祭、御輿への神霊の奉遷の後御輿の渡御となる。

それぞれの衣装に身を固めた氏子衆は拝殿前に隊列を整え、先導神職、満燈（花飾満燈）を先頭に参道から氏子区域へと神輿の前を掛け声を掛けながら進んで行く。この行列の特徴でもあり、見物でもあるのが毛槍奴の槍渡しである。掛け声を掛け



合い、踊りながら交互に槍を相手に渡す、また時には投げ渡していく。

この行列は四百年ほど前この地を治め甲駿国境警備にあたった渡辺因幡佑が国境警備に当たった若者たちの士気を高めるため行ったのが初めてであると伝えられる。また一説には武田信玄公正室三条夫人が京より駿河を経由し、この地を通り甲府へと向かったが、その警護とまた行列を模したため『公家行列』と言うと伝えられている。

写真後方に見える拝殿は文化三年に建築され、この拝殿内にある本殿は宝暦五年に再建、天明二年に彩色修復がなされた、一間社入母屋造り檜皮葺で、また本殿脇にある宝篋印塔は鎌倉時代から南北朝時代初期の頃のものと言われ、町の有形文化財となっている。

さらに御社殿後方に聳える夫婦杉は樹高四十五メートルと三十五メートル、目通り幹囲五、二メートルと五メートル、推定樹齢三百年以上という立派なものがある。

(撮影 中谷基夫氏提供)

千葉県神社庁

庁舎視察に来訪

去る五月三十日に、杉山林継庁長を始めとする千葉県神社庁の役職員十五名が、庁舎視察のため来庁した。

千葉県神社庁では新しい庁舎建設の計画があり、昨年新築し



たばかりの山梨県の庁舎を視察するための来庁であった。羽中田庁長が概要を説明した後、各部屋を順番に案内し詳細な説明を行った。

電気や空調等の使い勝手を始め、床構造や配線方式に至るまで詳細な質問があったが、やはりどの神社庁でも一番の悩みは、膨大な書類を収納するスペースをいかに効率よく確保するかということであり、書庫や倉庫を始め、カウンター下の書棚や廊下壁面の冊子棚等のスペースの使い方を熱心に見ていかれた。

遷宮募財現況報告

第六十二回神宮式年遷宮の奉賛活動につきましては、平素より並々ならぬ御尽力を賜り厚く御礼申し上げます。平成二十三年六月末日までの山梨県の募金金額ですが、目標額の五十七%の達成率でございます。この厳しい経済状況ではあります、ぜひとも今年度中の目標額達成に向けて今後も募金活動をお取り進め戴きますよう、甚だ御面倒をお掛け致しますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

「親子参宮団」

山梨県神社庁では、親子で伊勢の神宮にお参りする参宮旅行を教化委員会が中心となって以下の通り実施致します。御垣内特別参拝、夜間特別参拝、リニア鉄道館（平成23年3月オープン）の見学など親子参宮団ならではの二泊三日の旅行です。普段なかなかふれ合う機会の少ない親子・ご家族で伊勢の神宮にお参りしましょう。

記

- 1、日時 平成23年8月18日(木)・19日(金) (二泊三日)
- 2、行程

(一日目) 富士吉田、甲府発～外宮参拝～内宮参拝・神楽奉奏～おかげ横丁散策～旅館着 (夜間参拝)、(二日目) リニア鉄道館見学～海産物ショッピング～富士吉田、甲府着

- 3、参加費 大人 18,000円
子供 16,000円
(中学生以下)

- 4、お申し込み
7月31日締切ですので、お早めに神社庁・支部役員・神社宮司にお問い合わせ下さい。



参加してみませんか

「新穀感謝祭」

我が国の御親神、心のふるさとと仰ぐ「お伊勢様」。その限りない御神恩に感謝の真心を捧げ、「瑞穂の国」と称えられた我が国柄への思いを新たにす新穀感謝祭を今年も以下の通り実施致します。ご近所の方、ご友人などお誘いの上御参加下さい。

記

- 1、平成23年11月16日(木)～17日(木)
- 2、神宮では御垣内にて特別参拝、神楽殿での御神楽の奉奏が執り行われ、「干支の飾り皿」が参拝記念として撤下されます。
- 3、宿泊ホテル、行程、参加費は支部によって異なります、支部役員・神社宮司にお尋ね下さい。



「山梨県神社関係者大会」

平成二十三年度神社関係者大会を下記の日程、要項で開催致します。混迷する時局に鑑み神職総代と共に神社神道の昂揚に邁進し、以て地域の平安・活性化と国の隆昌に寄与致したいと存じます。今大会は神社庁設立六十五周年の記念大会となりますので、何卒万障御差繰り御参会下さいますよう御案内申し上げます。

記

- 1、日時 平成23年10月24日(月) 午後1時30分
- 2、場所 コラニー文化ホール (山梨県立県民文化ホール) 小ホール
- 3、内容 第一部 物故者慰霊祭・第二部 式典

「緑陰子供会」

鎮守の森に子供達を招いて、ゲームや紙芝居・雅楽の演奏などを通して神社や神様に対する理解や親しみをより深めてもらうために行っている恒例の緑陰子供会を、今年も下記の日程で開催致します。

記

- 1、日時 平成23年7月31日(日)
- 2、場所 佐久神社 (志村重治宮司) 甲府市下向山町892
- 3、内容 神社参拝 ゲーム 紙芝居 火鑽り実演 行灯作り 雅楽鑑賞
- 4、参加対象者 小学生

- 主催 山梨県神社庁
- 主管 山梨県神社庁教化委員会 山梨県神道青年会
- 協賛 佐久神社氏子総代会、山梨県神社庁 東八代支部、山梨県神道雅楽会



「第11回神社関係者囲碁大会」

神社関係者の親睦を深め、併せて青少年の健全育成を図る目的を以って囲碁大会を開催致します。

- 1、日時 平成23年8月18日(木) 午前9時～
- 2、会場 山梨県神社庁
- 3、参加資格 一般の部 神職・総代・氏子崇敬者 青少年の部 小中学生 (各部門10名程度)
- 4、参加費 一般の部 1,000円
- 5、申込期日 8月5日(金)まで
- 6、申込先 山梨県神社庁
- ※問い合わせ先 高野 英夫 0553-44-2150 小佐野文夫 080-5410-2303

- 主催 山梨県神社庁
- 主管 山梨県教育関係神職協議会
- 後援 山梨県神社総代会 山梨日日新聞社・山梨放送



「山梨県神社総代会大会」

県神社総代会 (宮川睦武会長) では恒例となりました大会を下記の日程、要項で開催致します。本大会は、県内総代が一堂に会して、総代としての意識の高揚、情報の交換を通して、神社界の更なる発展を図ろうとするものです。お忙しいことは存じますが、会場に足を運ばれまして、懇親を深める一日して頂きますようお願いし、ご案内申し上げます。

記

- 1、日時 平成23年9月6日(火) 午後1時30分
- 2、場所 コラニー文化ホール (山梨県立県民文化ホール) 大ホール
- 3、内容 第一部 式典 第二部 清興

